

大規模スポーツ施設の誘致検討

《目的》

○京都サンガ F.C.のスタジアムについて、京都市主導による京都市内での建設が白紙となり、京都市外の京都府域に広げて候補地の検討が進められることになった。

○これを受け、京都府では「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」を発足し、平成 23 年度にはサッカースタジアムも含めたスポーツ施設整備のあり方について提言がなされる予定。

○このような中で、本市におけるサッカースタジアムを中心とする大規模スポーツ施設の整備について、その意義や可能性、条件等について検討を行うもの。

《ねらい》

第4次総合計画～夢ビジョン～の目指す都市像
『水・緑・文化が織りなす 笑顔と共生のまち かめおか』
～セーフコミュニティの推進とにぎわいのまちづくり～

○都市像は、温もりと活気、にぎわいのある明るい未来を切り拓いていこうとする、まちづくりへの「意思」と、亀岡の「夢」・「希望」を表現したものの。その具体化が総合計画の役割。

○サッカースタジアムを中心とする大規模スポーツ施設は、市民が誇れる新たな都市の魅力を生み出し、多数の来訪客を受け入れ、まちの経済活力を高め、多様な市民活動や交流を醸成するなど、多様な波及効果が期待でき、その整備促進は、基本構想が目指す都市像実現の大きな手段の一つとなる可能性を有している。

○また、本市は、水と緑豊かな自然環境やゆとりある文化的環境を有し、JR山陰本線の複線化など都市の利便性が大きく高まりつつあることから、市民や府民のみならず、関西の幅広いスポーツファンのメッカとなる優れた条件を備えている。

○以上を踏まえ、サッカースタジアムを中心とする大規模スポーツ施設の整備に関する条件を考察する。

《前提となるスタジアムの基本属性》

《京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会》
第1次提言(抜粋)

○既存のスポーツ施設の総合的リニューアルとともに、新たなスポーツ施設の重点的整備を提言している。

《スポーツ施設の重点的整備》

『現在、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど京都において高い需要があるにもかかわらず、国際的な試合や全国的な試合の開催が可能な球技場が京都府内にはないことから、これに対応する競技場の新設を検討すべき。』

《前提となるスタジアムの基本属性の想定》

○スタジアム機能

- ・サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール兼用スタジアムとする
- ・関連施設(管理事務室、売店等)を併設する

○スタジアム規模(客席数)

- ・25,000席を確保する

○交通手段

- ・JR山陰本線を主体としつつ一定の自家用車対応を想定する

Jリーグのホームスタジアムの多くは、フィールドの大きさが近いラグビーやアメリカンフットボールと兼用となっている。

《Jリーグ規定による必要規模》

- ・J1クラブ主管公式試合：入場可能数 15,000人以上
- ・J2クラブ主管公式試合：入場可能数 10,000人以上

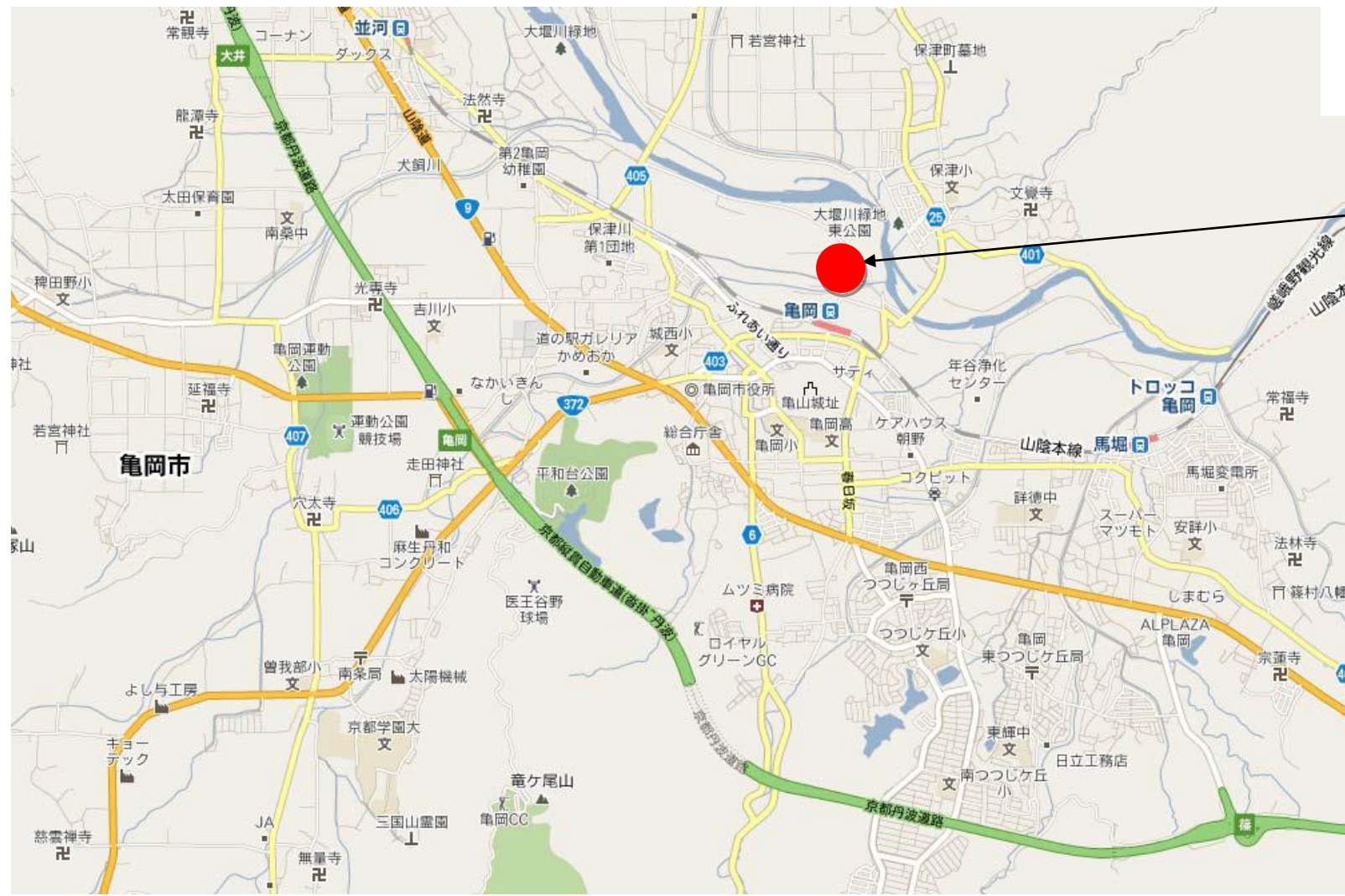
《京都サンガの観客動員数》

- ・13,687人/回(平均が過去最大であった2008年値)

《西京極スタジアム収容人員》

- ・20,588人

《スタジアムの整備位置》



《整備候補地区の設定》

亀岡市運動公園等の5カ所の候補地区について、位置、権利者等の状況、法規制、交通条件、その他の特徴を比較検討した結果、「亀岡駅北側(保津町)」を整備候補地区として抽出

《亀岡駅北側の評価》

《利点》

- ・市の玄関口である亀岡駅(2面4線)に至近であり、大きな輸送力がある
- ・駅北区画整理事業との連携により、市の活性化に寄与する
- ・関連道路が整備済みもしくは整備中であり、その有効活用が可能

《課題》

- ・敷地へのアクセス道路の整備が必要
- ・筆数・地権者が多数に及び
- ・保津川河川整備事業との関係整理が必要
- ・アコモドキとの共生、浸水対策が必要